

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) コマザワダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) マツダゼミナール
駒澤大学	経済学部	松田ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) チロルハン	フリガナ) ヒロカワカホ	5	無	無
チロル班	廣川夏帆			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

パワーポイント

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

Revolution

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

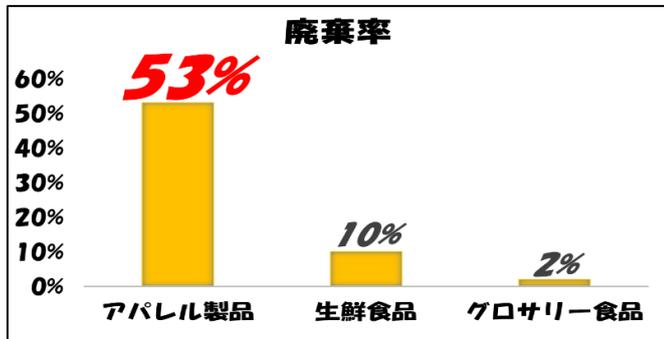
本研究の目的は、欧州で推奨されているサーキュラーエコノミーを日本に浸透させること。また、「無駄」と考えられ、廃棄されていた衣料品に新たな価値を付けることである。それにより、廃棄によって起きる環境問題の改善や貴重な資源の減少の抑制につながると思う。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

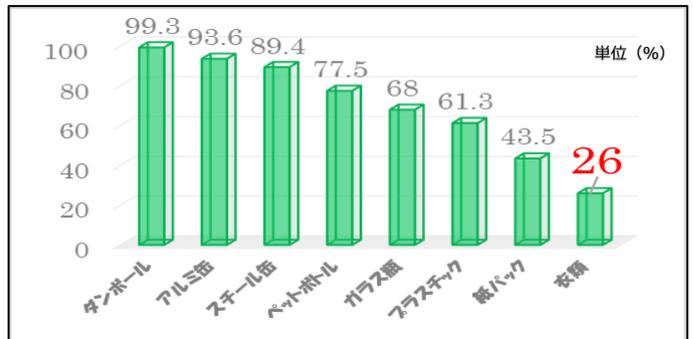
日本では年間、約 100 万トンもの衣料品が廃棄されている。食品の廃棄量と比べてもその差は少なくとも約 5 倍である (図

1)。衣料品の廃棄の主な原因に、大量生産、シーズンの細分化、ニーズの多様化が挙げられる。これらは、アパレル業界全体の問題であり、「生産構造を変える」か「消費の在り方を変える」かの二択しかないと考えた。

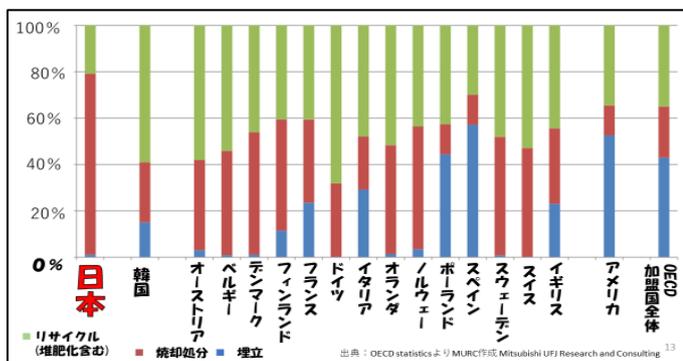
そこで、私たちは家庭で着なくなった衣料品に着目した。すると、衣料品の 3R 率が他の製品と比べて一番低いことがわかった（図 2）。さらに、OECD 主要加盟国における一般廃棄物処理方法に関する調査において、日本が一番リサイクル率が低いことがわかった（図 3）。これらのデータから、私たちは着なくなった衣類のリサイクルに取り組む必要性があると考えた。



(図 1)



(図 2)



(図 3)

3. 研究テーマの課題

この問題の課題点は、日常的に衣料品の回収が浸透していないことと、サーキュラーエコノミーの認知度の低さの 2 点である。現在行われている衣料品回収の取り組みは、特定の店舗にしか設置していないため、衣料品を持っていく機会が限定される。また、回収できる衣料品の基準が厳しいといった理由から、衣料品回収に対するハードルが高いと考えられる。これらのことから、衣料品を日常生活の中で回収しリサイクルできる仕組みが必要であると考えた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

第一段階では、駒澤大学に衣料品回収ボックスを設置する。大学にした理由は、大学は学生だけでなく地域の方々も利用できるオープンな空間だからである。また、大学生は SNS の利用率が高いため、彼（彼女）らをターゲットにすることで、インフルエンサーとしてより多くの人の認知度を高める役割を担ってくれると考えた。アンケート実施による認知度調査や、回収量を測定・データ化し、定期的に提携先の企業に報告する。その後全国の大学に活動を広げていき、衣料品回収を日常的なものにしたいと考えている。さらに、回収ボックスには参加を促すようなキャッチコピーを添えて、回収率を上げる工夫をする。そして、回収した衣料品は提携する企業にて工場へ運搬する。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

アンケート調査の実施（N = 133）、アパレル余剰マート様への聞き込み調査

6. 結果や今後の取り組み

アンケート調査（N = 133）の結果、70.7%の人が洋服を廃棄処分しているおり、リサイクルするまたは人にあげると回答した人はわずか29.3%だった。また、サーキュラーエコノミーは全く知らない・聞いたことない人は92.5%と、サーキュラーエコノミーの認知度の低さがうかがえた。このことから既存の取り組みは広まっておらず、より身近に感じることができる取り組みが必要だとわかった。

現在、大学や提携予定の企業とプランの実施について協議中である。

7. 参考文献

- ・勝呂高尾（2006）「適正在庫のテクニク」 日経工業新聞
- ・石畠良太郎 牧野富夫 伍賀一道（2019）「よくわかる社会政策」 ミネルヴァ書房
- ・NHK「新品の服を焼却！売れ残り14億点の舞台裏」
<https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4182/index.html>（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・茅ヶ崎市「4Rでちがさきの未来を築く ごみの減量化・資源化」
<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankyo/gomigenryo/1003310.html>
（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・ヒカカク「ノーブランドの服はいくらで売れる？」
<https://hikakaku.com/blog/>（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・ES 研究所「アパレル業界の現状と課題」
<https://es-labo.com/flow/industryresearch/apparel/current-status-task/>
（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・商業界「衣料品の賞味期限と需給調」
<http://shogyokai.jp/articles/-/1072>（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・Mayonez.「アパレル業界研究「現状」「今後の動向・将来性」を知り尽くそう」
<https://mayonez.jp/topic/1140>（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・野村総合研究所「生活1万人アンケート（8回目）にみる日本人の価値観・消費行動の変化-情報端末利用の個人が進み、「背中合わせの家族が増加-」
<https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/knowledge/report/cc/mediaforum/2018/forum272.pdf?la=ja-JP&hash=11CCF832BC6EC6481392389F6BBD74B4D12C51A2>
（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・ForbesJAPAN「未来型ビジネスの街、アムステルダムのサーキュラーエコノミー最前線」
<https://forbesjapan.com/articles/detail/25110>（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・経済産業省製造産業局「アパレル・サプライチェーン研究会報告書」
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/apparel_supply/pdf/report01_01_00.pdf
（最終アクセス日 2019/9/23）
- ・経済産業省製造産業局生活製品課「繊維産業の課題と経済産業省の取組」
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/180613seni_kadai_torikumi.pdf
（最終アクセス日：2019/9/23）
- ・STI Horizon「サーキュラーエコノミーの動向と2050年のビジョン」

- <https://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/NISTEP-STIH5-1-00166.pdf>
(最終アクセス日：2019/9/23)
- ・ 21世紀政策研究所「欧州 CE 政策が目指すもの」
<http://www.21ppi.org/pdf/thesis/190405.pdf> (最終アクセス日：2019/9/23)
 - ・ サークュラー・エコノミー時代のビジネス戦略
[https://cs2.toray.co.jp/news/tbr/newsrrs01.nsf/0/B9B50176890CC8F649258326004DC2E0/\\$FILE/sen_201_02.pdf](https://cs2.toray.co.jp/news/tbr/newsrrs01.nsf/0/B9B50176890CC8F649258326004DC2E0/$FILE/sen_201_02.pdf) (最終アクセス日：2019/9/23)
 - ・ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「3R 政策の振返りと社会の変化、資源循環に関わる産業が直面する課題」
https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/junkai_keizai/pdf/004_04_00.pdf
(最終アクセス日：2019/9/23)
 - ・ 一般社団法人安藤企画
<https://andokikaku.or.jp/contents.php?gr=work> (最終アクセス日：2019/9/23)
 - ・ modelpress「衣類廃棄量は年間約 100 万トン！アパレル業界が目指すリユースとは？」
<https://apparel.mdpr.jp/column/howto/7391> (最終アクセス日：2019/9/23)

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください